



図書館だより 1月号



発行日 2018年1月26日
発行 戸塚高校図書委員会

作家トーク最終回です。
今月は三島由紀夫と J.K.ローリングです。



三島由紀夫

- ・戦後の日本文学界を代表する作家の一人でノーベル賞の候補。
- ・東京都四谷に3人きょうだいの長男として生まれ、病弱なため詩や俳句を「小ざくら」で発表するようになる。16歳の時に処女作、『花ざかりの森』を書き上げ、評価が高かったので日本ロマン派国文雑誌「文藝文化」に掲載されるが、本名ではなく「三島由紀夫」とペンネームにした。

後に学習院高等科を首席で卒業し、東京大学法学部に進学。42歳の時に自衛隊に入隊し、独自の会、楯の会を結成、東部方面総監を人質にして演説した後、切腹して自殺した。

逸話として華奢な体をムキムキにしたことが有名。



代表作品『仮面の告白』

三島由紀夫の2作目の長編小説で、初の書き下ろし小説でもある。大きな成功をおさめた代表作で自伝的作品。人と違う性的嗜好に悩み、生い立ちからの自分を客観的に生体解剖していく「私」の告白の物語で性的異常さの自覚と、正常な愛への試みと挫折が、苦痛と悲哀に満ちた理知的かつ詩的な文体で描かれている。当時、同性愛というテーマを赤裸々に描いたことは大きな話題を呼び、三島が24歳で、一躍著名作家となるきっかけとなった作品です。

出典：ウィキペディア

代表作

『金閣寺』

『仮面の告白』

J.K.ローリング



基本プロフィール

- ・イギリスの小説家
- ・『ハリー・ポッターシリーズ』の作者

J.K.ローリングの名言

- ・度胸さえあれば不可能はない
- ・無関心と放置はしばしば、嫌い、ってことより人を傷つける
- ・どんな有名人でも必ず何か問題を抱えている。
でも、私はとびきり幸運な人間ということもわかっている。自分が何よりも好きなことをしているのですから。
- ・ずうずうしくなればなんだってできるのよ。

J.K.ローリングの心にぐっとくるスピーチの一部

「失敗がもたらす恩恵」

- ・失敗しないことということ自体が失敗
- ・失敗しないのは慎重になりすぎて自分の人生を生きていないのと同じこと。
- ・失敗を通じ、夢をかなえるための確固たる意志があること、

そして自分が思っていた以上に夢をかなえるために必要な行動をとることができることに気が付いた。

「想像力とは他人に寄り添うことができる力」

- ・想像力は今ここにないものを考える人間独自の力。

J.K.ローリングについて…生い立ちとハリー・ポッター誕生の背景



①1960年代の初めに、

両親はロンドンのキングス・クロス駅で出会った。



ハリー・ポッターもこの場所から物語が始まる。

紅色の蒸気機関車が、乗客でごったがえすプラットフォームに停車していた。
ホームの上には「hogwarts行特急 11 時発」と書いてある。
振り返ると改札口のあったところに「9 と 3/4」と書いた鉄のアーチが見えた。
やったぞ。

(「ハリー・ポッターと賢者の石」より)

キングス・クロス駅はイギリスでも特に大きなターミナル。19世紀ごろ蒸気機関車が栄えていたころ鉄とガラスで作られた。
ロンドンオリンピックの時に大きくリニューアル！
今ではハリポタのマフラーを貸してくれたり、写真を撮ってくれるサービスもある。

ローリングの両親のプロポーズ

自動車技師のピーター・ローリング(19)がアン(19)に列車内でプロポーズ

②1965年7月31日長女としてJ.K.ローリング誕生

・ジョアン・ローリング→ J.K.ローリング誕生！！ at チッピング・ソドベリー



ジョーの小さいころ

あだ名は「ジョー」

小さい頃からお話をつくっていた。

ハリー・ポッターシリーズの登場人物は

子どもの頃のローリング自身や友人がモデルになっている。

色々な本からも影響を受けた。

面白い名前の場所で
生まれた

4歳の時から本を書き始めた。

5歳か6歳になると、一匹のウサギが麻疹にかかって、

たいそう大きなミツバチや他のお友達がお見舞いにやってくるお話を書いた。

4歳で自身が麻疹にかかったとき、父が『たのしい川べ』という

小さな動物たちが繰り広げる愉快的冒険を集めた本を読んでもらったことが心に刻まれていた。

「2歳下の妹に、お話を作って聞かせようとする、うさぎがぼうっと頭に浮かんで消えなかった。

うさぎがほしくてたまらなかった。」

「ずっとこのころから作家になるのが夢だった。

でもそんなの無理といわれるのが怖く滅多に人に打ち明けなかった。」と自伝で語っている。



一家は引っ越しをし、ジョーはイアン・ポッターとヴィッキー・ポッターというきょうだいと仲良くする。

名字の響きが好きだった。このポッターをとってハリー・ポッターになった。

イアン・ポッター→女の子たちを引き連れてナメクジを皿の上のせたりするなどいたずら大好き！

→きまじめなジョーもぞくぞく！後にイアンは有名になった友達の本を自分の子に読み聞かせたという。

8歳で『まぼろしの白馬』という本をもらう。→ローリングに似た作家。

登場人物が細かく書かれるところが気に入る。→hogwartsのことも詳しく書いている。

11歳のころのローリング

そばかすだらけで内気だった。厚いメガネを掛けていた。

国民保険で0円でもらったもので、瓶の底くらい厚いレンズ→ハリーも眼鏡をかけている。

本を読むことは好きだったが、成績はひどく悪かった。→自分の願望を満たしたくてハリーをほうき乗りの名手にした。

ハーマイオニーは以下のようなローリングのキャラクターが元になっている。

○魔女

○しきり屋の女の子

○紙が栗色でフサフサしている

○利口ぶっている

○前歯がちょっと大きかった

・・・これらの特徴が「まさしく私のカリカチュアなの」 by ローリング